

| ワークショップ

| 2026年8月6日(木) 13:30 ~ 16:30 | J213(本館2階)

| **[WS-4] 留学エージェントとの協業をいかに実現するか ー国際調査とケース・スタディから考える大学における国際教育の新たな展開ー**

## ◆ 日本語発表

| 13:30 ~ 16:30

| **[WS-4-01] 留学エージェントとの協業をいかに実現するか ー国際調査とケース・スタディから考える大学における国際教育の新たな展開ー**

\*太田 浩<sup>1</sup>、\*赤松 茂利<sup>2</sup>、\*神田 延男<sup>3</sup>、\*ソン デジュン<sup>4</sup>、\*ヴァン・デ・ヴィーン マーティン<sup>5</sup>、\*川合 恵美<sup>5</sup>、\*小山 弘樹<sup>6</sup>、\*セイハス オクタヴィオ<sup>7</sup>、\*リー ジヘ<sup>8</sup> (1. 一橋大学、2. 早稲田大学、3. 桜美林大学、4. 建国大学、5. ICEF、6. iaeグローバルジャパン、7. Academic Programs International、8. WorldStrides)

キーワード：留学エージェント、留学生募集、大学国際化、日本市場に関する最新調査、関心の乖離、募集戦略

**受講者に求められる 事前の知識・経験等**

発表は、日本語と英語で行います。

**受講者が受講前に取り組む 事前課題等**

事前にアンケートを実施いたします。

**概要**

日本の高等教育機関が留学生受け入れを拡大・多様化させる上で、世界の留学市場で中心的な役割を果たす「教育エージェント」との連携は不可欠な戦略となります。しかし、国内大学の多くは依然として「関心はあるが、具体的な一歩が踏み出せない」という状況にあります。

本ワークショップでは、2026年3月に実施された「日本の高等教育機関を対象とした世界各国の留学エージェントの意識・実態調査（ICEF調査）」の最新結果を公開します。本調査では、日本への関心が極めて高い（5段階評価で4.41）一方で、実際に提携に至っているのはわずか12.5%という顕著な「Interest Gap（関心の乖離）」が浮き彫りになりました。

この「期待」と「現実」のギャップをどう埋めるべきか。本セッションでは、最新データと国内外（日本・韓国）のケース・スタディをインプットとして共有した後、参加者主体のインタラクティブなディスカッションを行います。登壇者とのラウンドテーブルや参加者同士の対話を通じて、新しい挑戦への戸惑いや期待を等身大で共有し、自学の組織文化や既存の体制の中で『最初の一步』をどう描けるか、その可能性を共に模索します。